

ニッターズルームで
手織りを学ぶ



aShford
WHEELS & LOOMS

ようこそ、 すばらしい手織りの世界へ・・・

初めてのスカーフを織る

用意するもの：よく切れるはさみ、メジャーテープ、約20cm幅の柔らかい紙、テーブルを2つ。

糸：この作品では、アシュフォードテカポを使用しています。たて糸には少し質感のある手紡風のなめらかなDK（ダブルニット）スポーツウェイトヤーンを、よこ糸にはファンシーヤーン（アイラッシュヤーン）を使っています。

糸の量：アシュフォードテカポDKヤーンブライトピンク-100g玉×1、ファンシーヤーン-50g玉×2。

*全ては使い切りません。残りは次の作品に使いましょう。

たて糸：

アシュフォードテカポ

長さ-1.9m（両端のフリンジ分23cmを含む）

たて糸の数-32

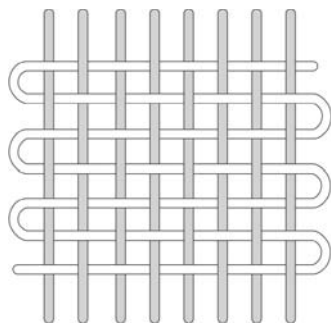
仕上がり幅-10cm

よこ糸：

ファンシーヤーンを2本一緒に板ひに巻いて使います。

たて糸とよこ糸

まず、全ての織りの基礎となる2つの用語を覚えましょう。最初に、はたの前と後ろのローラーの間に張られるのが「たて糸」です。そのたて糸の上下を交互にくぐりながら、織物の端から端まで通っているのが「よこ糸」です。



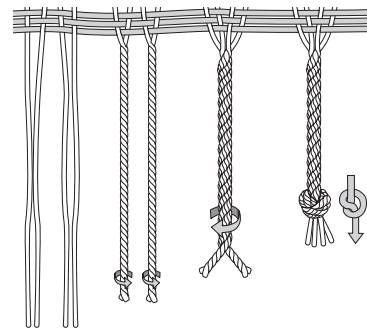
テーブルが1つしかない時は...

テーブルには、はたを固定して、イスにたて糸を巻いていく方法もあります。イスは真直ぐな背のものが向いています。

ツイストフリンジ

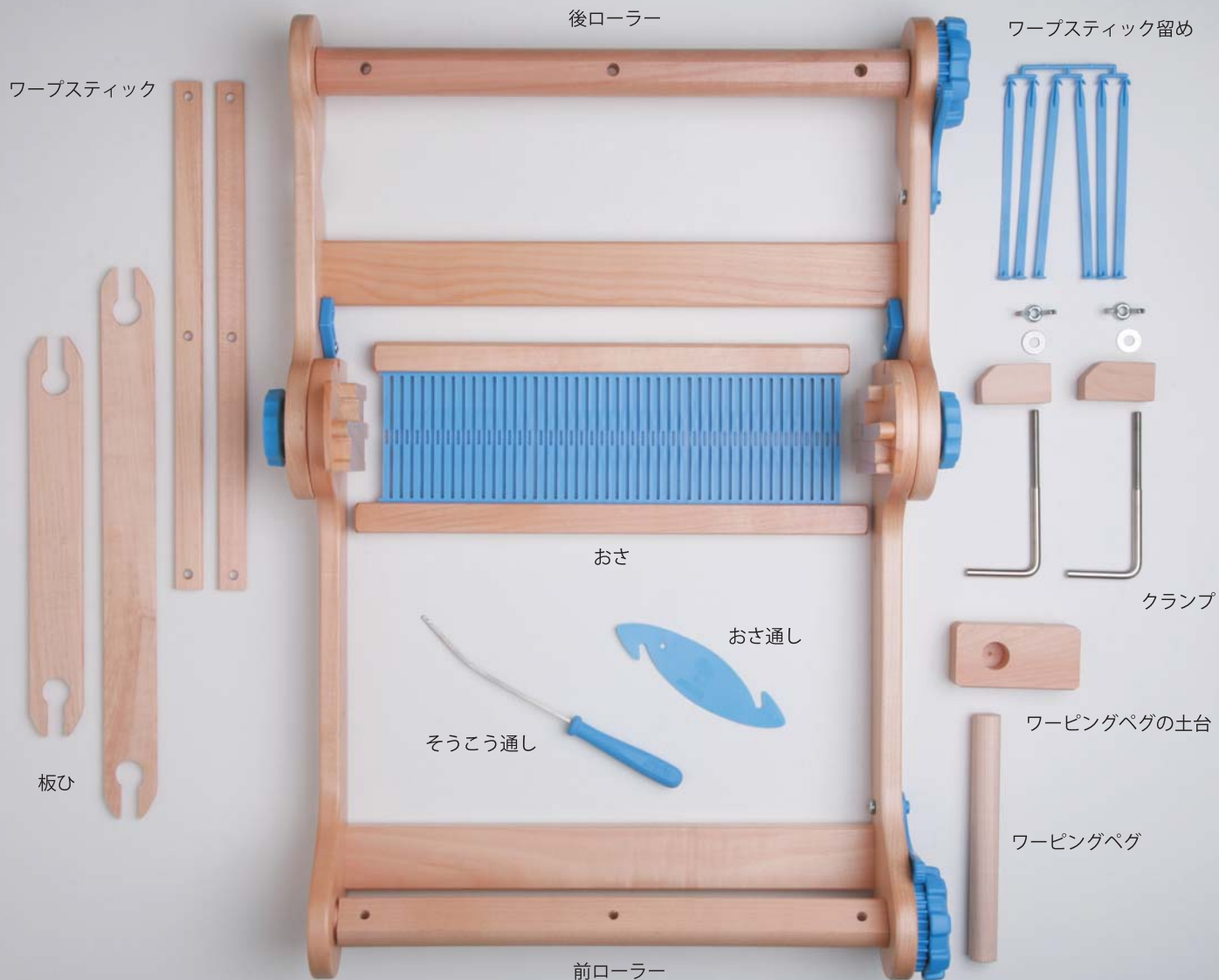
仕上げの時に、4本のたて糸を撚って房にします。

まず、4本の糸を2本ずつに分け、中指と人さし指、親指を使って、それぞれを右に撚ります。次に、今撚った糸を互いに合わせて、逆方向に撚っていきます。丁度よい撚りがかかったと思ったら、端を結んで留めます。撚を多くかけると軽く細い感じのフリンジになります。



アクセサリー

おさ-20、30、40、50羽/10cmを使えば、色々な糸を使って、ほとんどどんな作品でも織ることができます。



このはたについて

このおさの穴とすき間は、ファンシーヤーンが通りやすいように大きめになっています。このおさで、よこ糸を打ち込んで織物にしていきます。たて糸はこの穴とすき間に通します。このおさには10cmあたり30本の糸が通ります。

板ひは、よこ糸を縁から縁に渡し、織物にしていくために使います。ワーピングペグ、2種類の糸通し、2つのクランプは、たて糸を張るときに使います。

01



はたを折り畳んだ状態です。

02



サイドノブをゆるめて、はた本体を開きます。

サイドノブ

03



上げ位置

休み位置

下げ位置

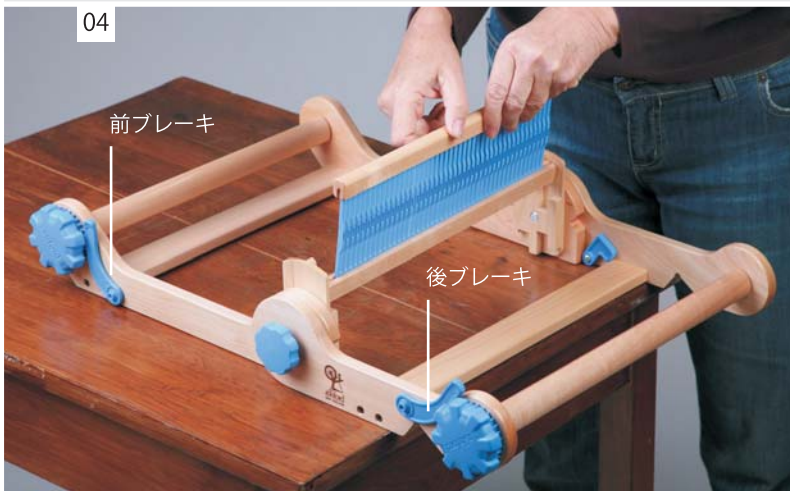
持ち運び位置

前

後

両脇のおさ立てを上に向けて、サイドノブを締めます。
この時に、おさ立ての4つの位置を確かめて下さい。

04



前ブレーキ

後ブレーキ

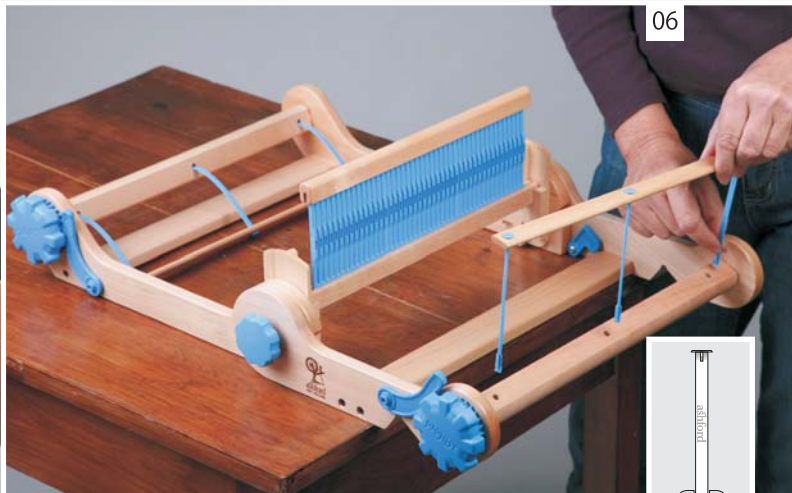
おさを「休み位置」に立てて、前後のブレーキのつめが、それぞれの歯車にきちんとはまっているか確かめます。

05



ワープスティック留めを使って、前後のワープスティックをそれぞれのローラーに留めます。まず、ワープスティック留めの矢印型の先を、ワープスティックの穴に通します。

06

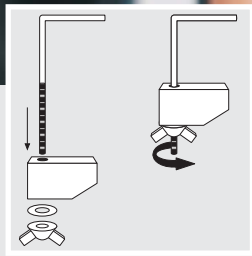


ワープスティックに通した矢印をそのまま引っぱり、ローラーの平らになった面から、同じように差し込みます。

07



右図のようにクランプを組立てて、はたの後ろをテーブルに固定します。



08



下面に切り込みがある方が、はたの後ろになります。

09



ワーピングペグをワーピングペグの土台に差し込んで、もう一方のテーブルにクランプを使って固定します。

10



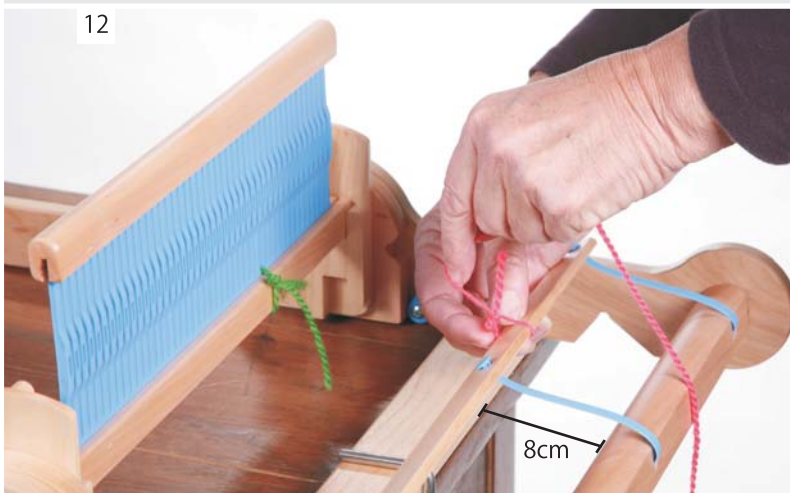
ワーピングペグから、はたの後ワープスティックまでの距離が、だいたい1.9mになるようにテーブルを離します。

11

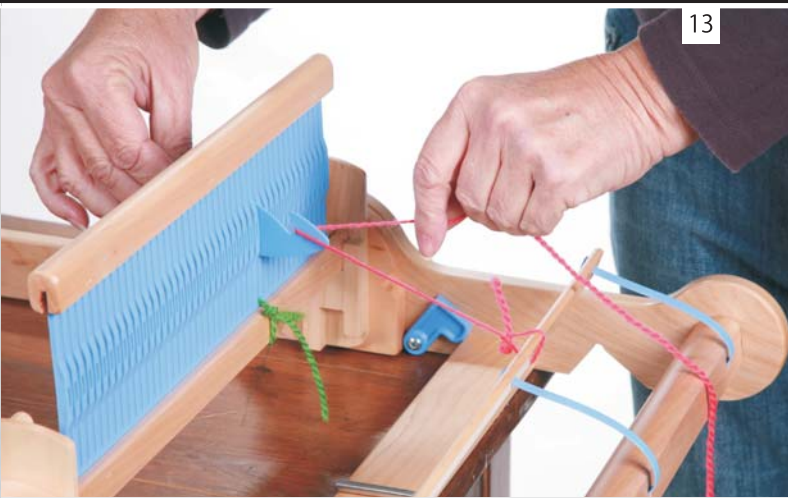


おさの端から15番目のすき間に、目印の糸を通します。

12



たて糸は32本ですので、16のおさのすき間に2本ずつ糸を通します。まず、目印の糸のちょうど後ろで、たて糸を後ワープスティックに結びます。この時、ローラーとワープスティックの距離は約8cmです。



目印の糸を通したすき間に、おさ通しを使って最初の糸を通します。



通した糸を、そのままワーピングペグまで持っていき、ワーピングペグに引っかけます。この時、糸玉ははたの後ろの床に置いておきます。



ふたたび後ワープスティックに戻って、今度はワープスティックの下から糸を引いて次の輪をつくり、それを先ほどの隣のすき間を通して、同様にワーピングペグまで引張って行って引っかけます。



そしてまたワープスティックに戻り、今度はワープスティックの上から糸を引いて、隣のすき間に通し、ワーピングペグに引っかけて戻ります。下、上、下、上という具合に、16のすき間に糸が2本ずつ通るまで続けます。

17



最後の糸は、後ワーピングスティックに結んで切ります。

18



15cm位の糸を用意して、たて糸をワーピングペグの前あたりで束ねて、あとでほどこしやすい結び方でしっかりと結びます。

19



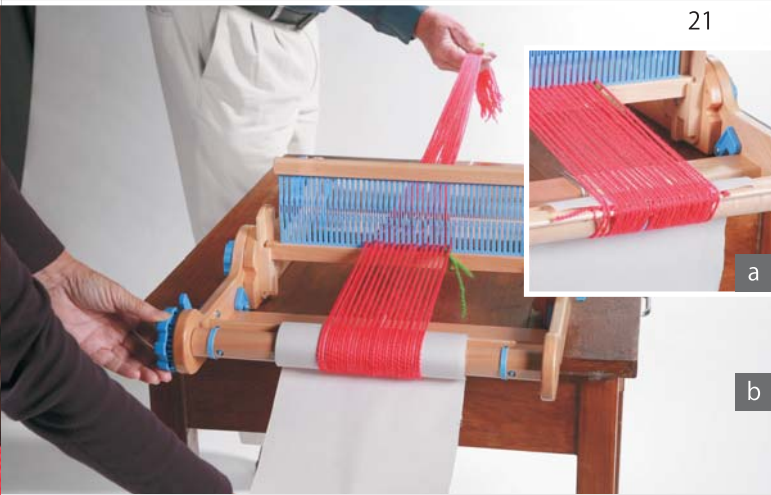
ワーピングペグにかかっている糸を、全て切ります。

20



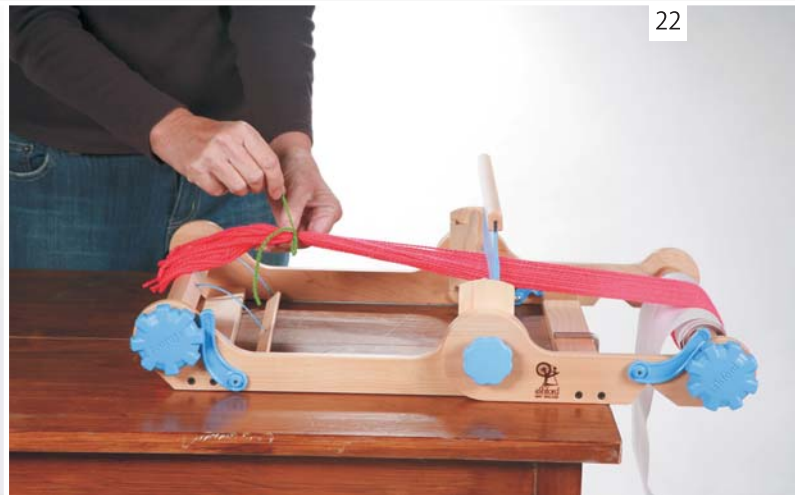
ここで誰かに、切った方の端の束ねて結んであるところを持ってもらいます。持っている人には、これからたて糸が巻き取られるにしたがって、少しずつ前に進んでもらうことになります。

21



a. はたの後ろに立ち、ワースティックがローラーを一周するまで後ろのハンドルを手前に巻いたら、紙を挟みます。b. 紙を挟みながら巻き続けます。紙が糸同士を離し、張りを均等にします。紙は次々に足していきます。

22



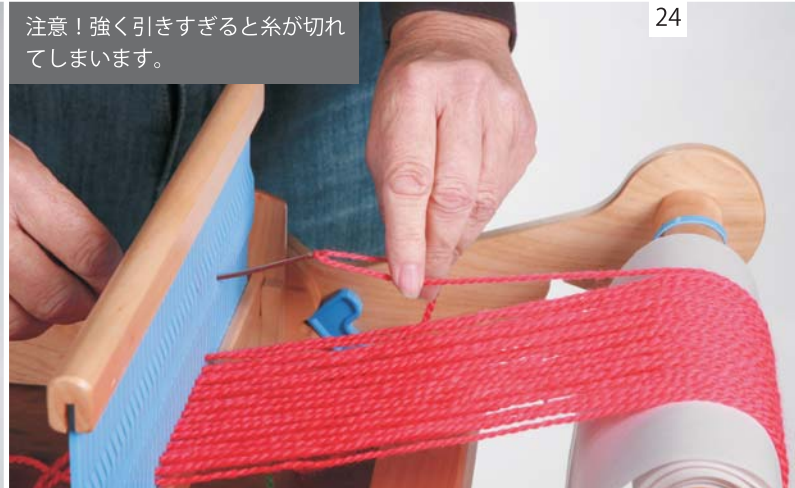
たて糸の束ねて結んであるところが、はたの前を通り過ぎた辺りまできたら、巻くのを止めて、束ねてある糸をほどきます。ほどいた後は、それ以上巻かないようにして下さい。

23



はたをテーブルから外したら、サイドノブを緩めて、内側にあるL字ブロック（上図左）が、凹みにはまるまで、はたの後ろを持ち上げます。おさ立てが上を向いているかどうか確かめて、再びサイドノブを締めます。

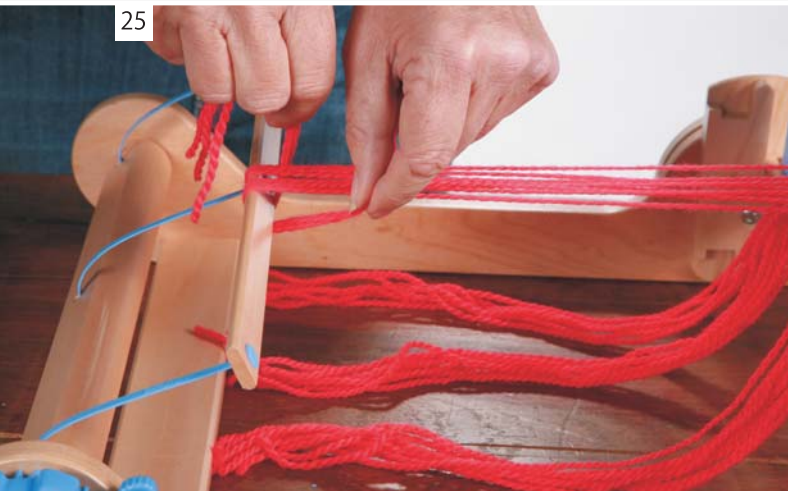
24



注意！強く引きすぎると糸が切れてしまいます。

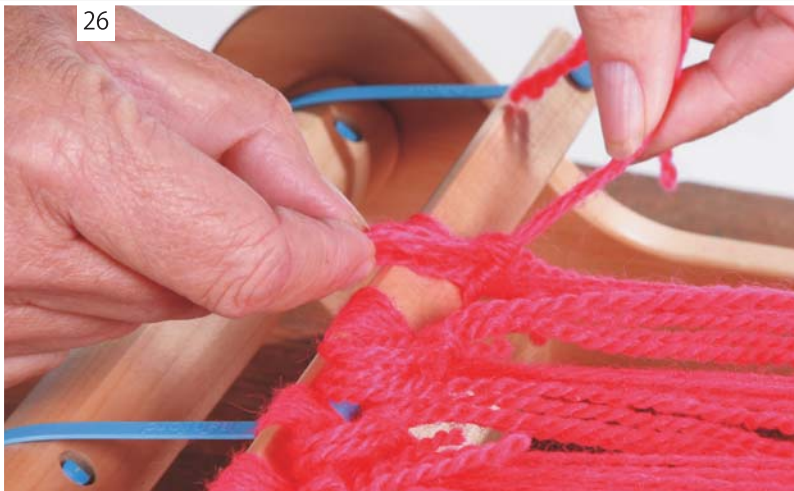
一番左のすき間の2本の糸を持ち上げて、左側になっている糸だけを慎重にすき間から引き抜き、すぐ左隣の穴にそうこう通しを使って移します。これを繰り返して、すき間と穴に一本ずつ糸が通っているようにします。

25



はたの正面に立って、たて糸を8本づつ、4つの束に分けて、真中の束から前ワープスティックに結びます。束をワープスティックの上から下へくぐらせたところで束を2つに分けて、一周させて挟むように上で結びます。

26



この時点では、1回だけ結んでおきます。

27



残りの3束も同じように結んだら、全ての糸の張りが均等かどうか確かめます。前ローラーを手前に巻いて、たて糸を張ります。

28

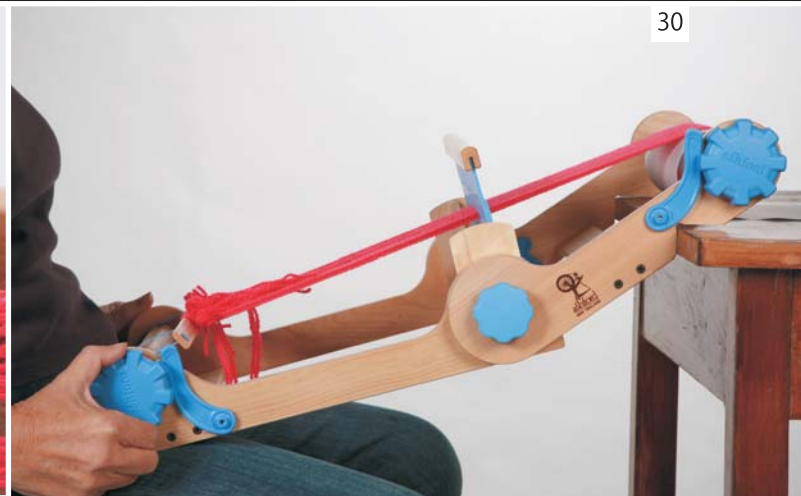


全ての束の張りが均等になるまで、結び目を調節します。



29

全ての束の張りが均等になったら、作品ができ上がった時にほどこきやすいように、片結びにして留めます。



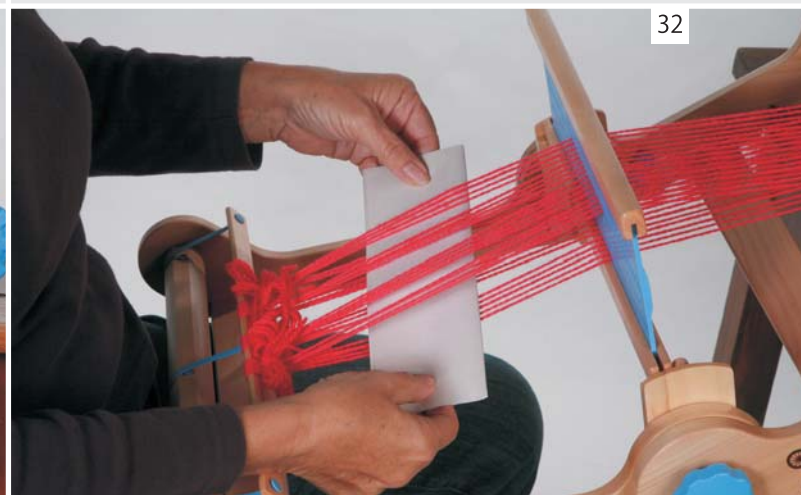
30

はたをひざの上に置いて、後ろの切り込みをテーブルの縁に引っかけます。



31

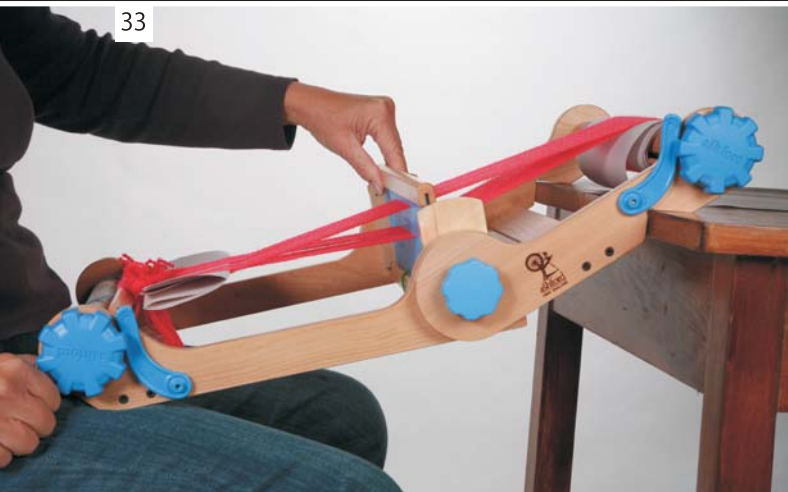
おさを持ち上げて、おさ立ての「上げ位置」に置きます。



32

柔らかい紙を5cm x 20cmくらいに折りたたんで、上下に開いたよこ糸を通す口に通し、手前に引きよせます。

33



おさを「下げ位置」にすると、次によこ糸を通す口が開きます。

34



2本によこ糸を、一緒に板ひに巻きます。

35



- a. 板ひを通します。
b. この時、よこ糸の始まりの端を5cm程残します。

36



おさを「上げ位置」にして、残しておいたよこ糸の始まりの端を、指で通します。

37



次の段を通して、おさでやさしく打ち込みます。作品をはたから下ろした時に、ファンシーヤーンの良さをだすために、段と段の間に少し余裕を持たせて打ち込みます。

注意！打ち込みはやさしくします。段と段の間に余裕を持たせて下さい。

38



よこ糸は、でき上がりの縁が真直ぐになるように、強く引きすぎないようにします。それには、よこ糸を通した後、おさで打ち込む前に、よこ糸の出口側をおさ方に上げて、約20°の角度をつけます。

39



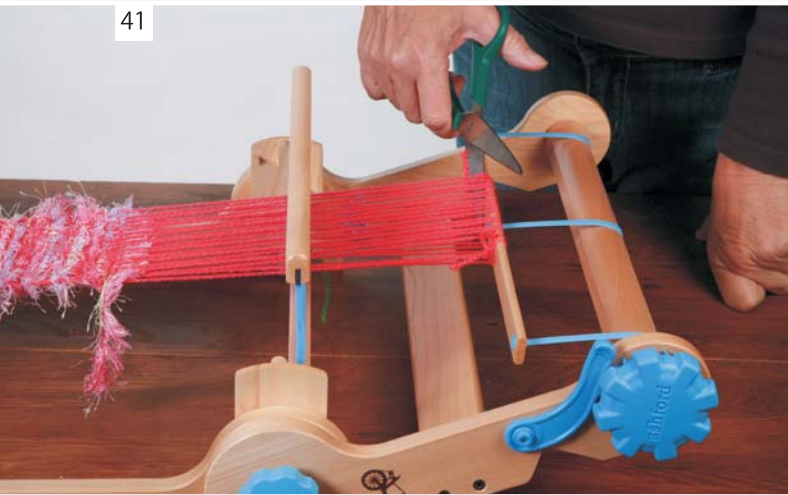
これまでと同じ要領で作業を進めて、おさから10cm位のところまで織ったら、前ローラーに巻き取ります。まず、おさを「休み位置」にして、後ローラーのブレーキを外し、たて糸を少し緩めます。

40



後ローラーのブレーキを戻した後、前ローラーのハンドルを回して、緩ませた分のたて糸を巻き取ります。この様にしてどんどんと織り続けます。

41



後ローラーのたて糸がなくなり、おさから13cm位のところまで織ったら、よこ糸の端を少し残して切って、たて糸を後ワープスティックにそって切ります。ワープスティック留めを切らないように気をつけて下さい。

42



前ブレーキを外し、作品を巻き戻してローラーから外します。

43

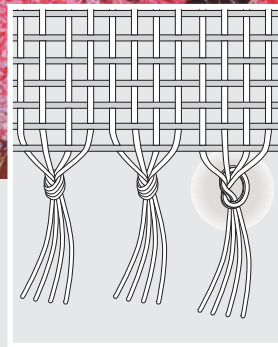


ワープスティックに結んであるたて糸をほどこき、紙を取り除いて、作品をはたから下ろします。

44



作品をテーブルに広げて、房を4等分にしたら、それぞれを図の様に結びます。余らせたよこ糸の最後の端は、かぎ針で作品に編み込みます。



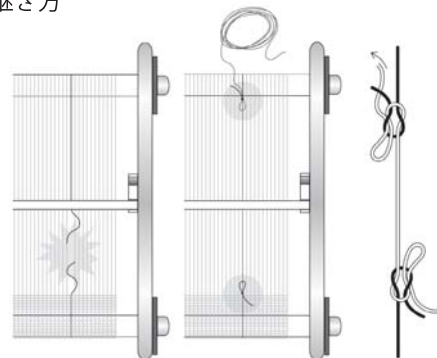
仕上げ

織り上がった作品は洗うと、糸が膨らんで、糸と糸のすき間がうまり、より仕上がり感ができます。

洗い方

ほんの少し洗剤を入れたぬるま湯にスカーフを浸し、軽く押し洗いをします。石鹼水を流し、きれいなぬるま湯ですすいで、干します。タオルの上に重ねて干すと折り目がつきません。まだ濡れているうちに柔らかい綿布をかぶせて、上から低温のアイロンで押し、今度は完全に乾くまで干します。さあ、これで初めての手織りスカーフのできあがりです。

たて糸が切れた場合の継ぎ方



役に立つヒント

結び方

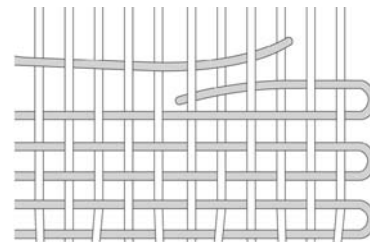
あとでほどく結び目は、ほどきやすい結び方にしましょう。

打ち込み

おさはいつもやさしく打ち込みましょう。織っている時はすき間が目立つかも知れませんが、でき上がってはたから外して、張りがなくなった状態になると目は詰まります。そして、その後の洗い仕上げでも目はさらに詰まります。

よこ糸の足し方

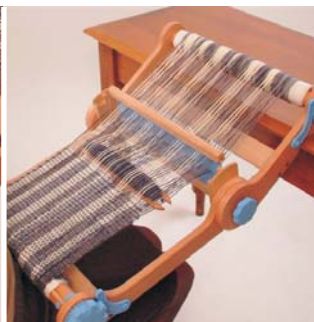
新しい糸の端が前の糸の端と重なるように継いで打ち込みます。



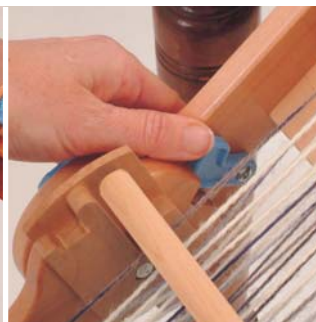
折り畳み方



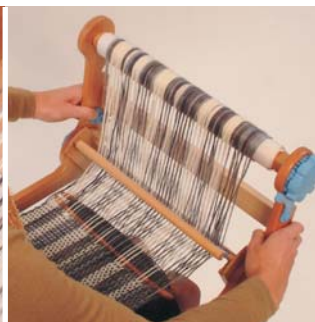
おさを「上げ位置」に置き、開いた口に板ひを挟みます。



おさをおさ立て後ろ下部の「持ち運び位置」に押し下げます。



サイドノブを緩め、親指でL字ブロックを外します。



はた本体の後ろ側を手前に折り畳みます。



再びサイドノブを締めたら、さあ出発！

手織りについての役に立つヒントや
アイデアなどの詳しくは、ロウ
エナハート著 "the Ashford Book of
Weaving for Knitters (25 easy and ex-
citing scarf patterns)", "the Ashford
book of Rigid Heddle Weaving." を
どうぞ。

ashford
WHEELS & LOOMS

Ashford Handicrafts Limited

工場&ショールーム: 415 West Street
P O Box 474, Ashburton, New Zealand

電話: +64 3 308 9087

ファックス: +64 3 308 8664

E-mail: sales@ashford.co.nz

ホームページ: <http://www.ashford.co.nz>

